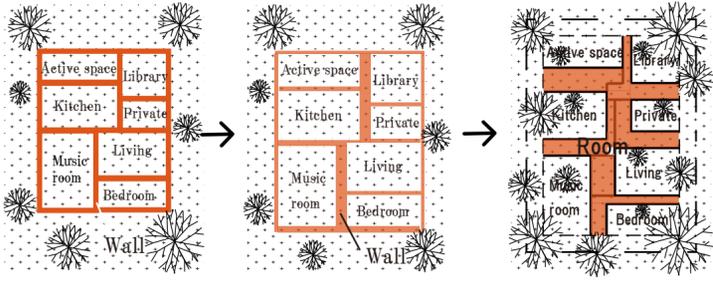


05| 境界を生み出す空間

■ 壁のずれに住まいの改変 (図と地の反転)

居室を壁側に集約し、従来の居住スペースを半屋外のオープンスペースとして再編することで、内と外の境界に暮らすような柔軟な生活環境をつくる。6戸の居室がひとつの「大きな家」としてつながり、高齢者同士が家族のように支え合える暮らしを実現。

自室外の7つの囲われたオープンスペースが、個と集いの距離を緩やかに調整し、街や仲間との関わりを自然に生み出しながら、自立を支える。

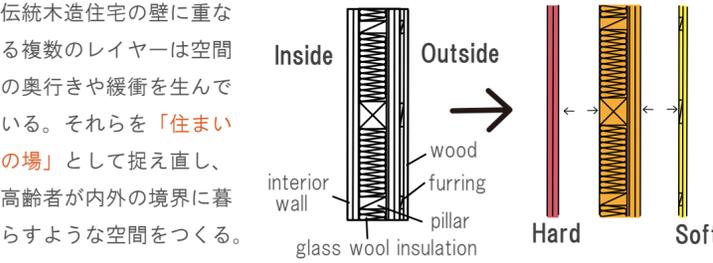


従来の住宅
敷地内で内部と外部が分断される

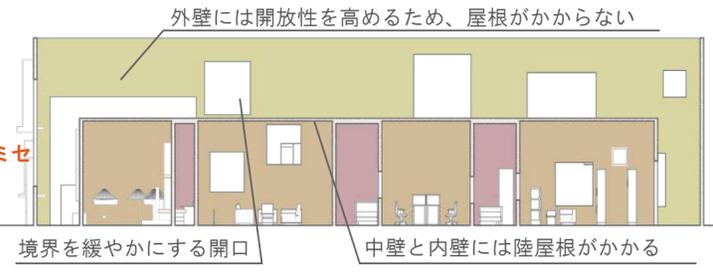
壁を広げる
壁と居住スペースを反転させる

更に広げて居住空間に
敷地外内の境界を曖昧にする

■ 木質壁の性質から着目したレイヤーの分解

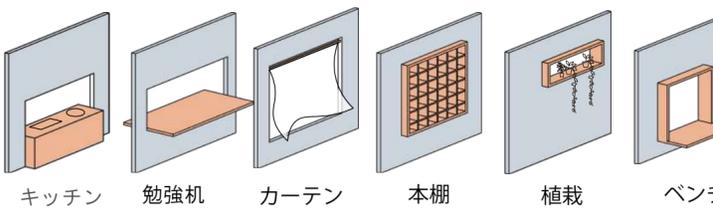


伝統木造住宅の壁の性質、すなわち外側は柔らかく内側は硬い材質で構成されることを参考に、外側レイヤーに向かって段階的に開口を設ける。これにより、内外の境界に柔らかさを感じられる空間をつくり、高齢者が安心して暮らしながら街や仲間との関わりを自然に体感できる環境を演出する。

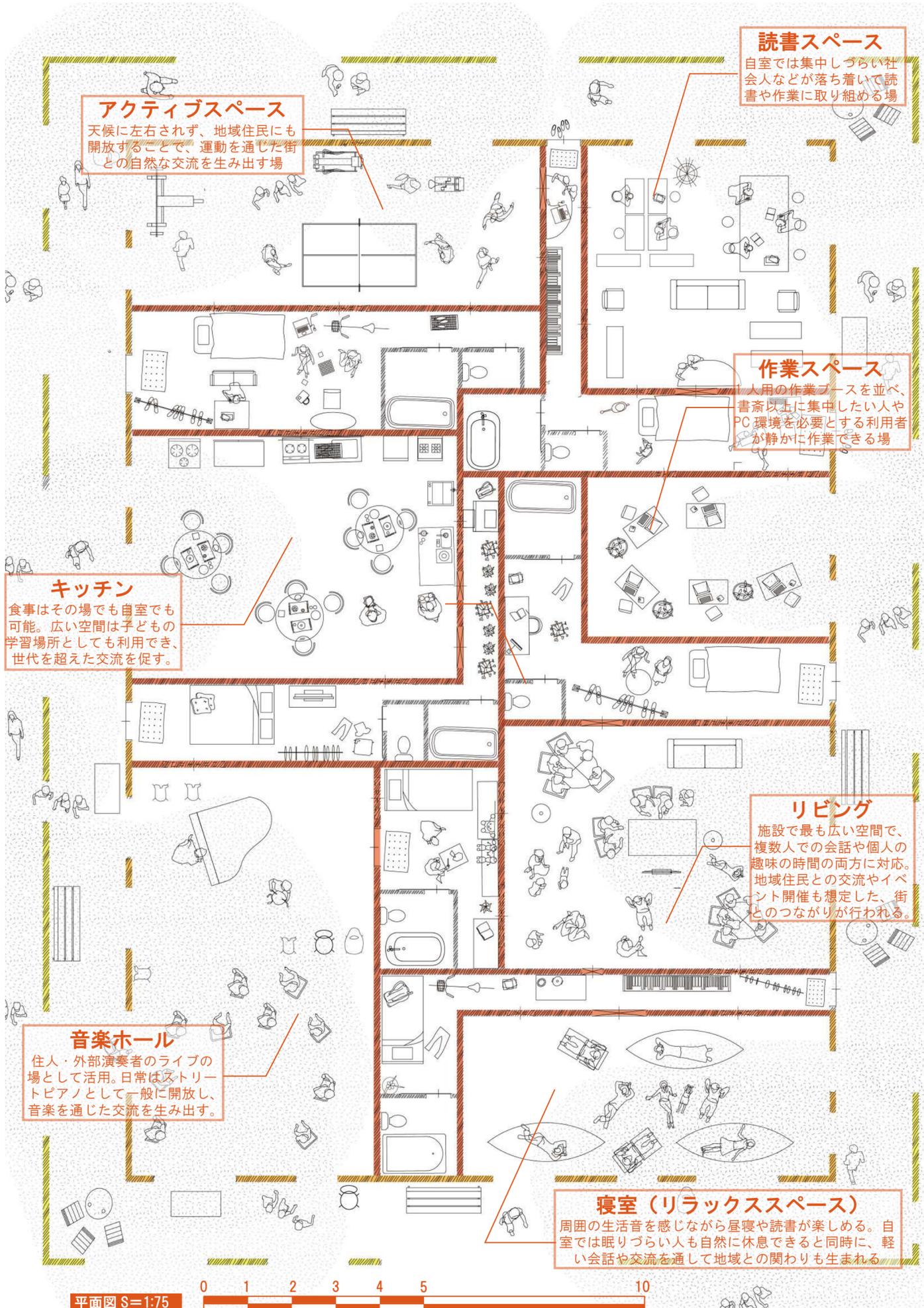


■ 壁の開口から生まれる「ミセ空間」

室内と屋外がゆるやかにつながる空間づくりとして、各壁に「小さなミセ」を設けている。見せ場を通じて、屋外の景色や光、風を感じながら室内で過ごすことができ、居住される方一人ひとりの生活のリズムや個性に合わせて空間の表情が豊かに変化する。日々の暮らしの中で、内と外がやさしくつながる安心で心地よい環境を生み出す。



06| 就労支援とオフィスの交わる各機能とスケジュール



壁のずらしや図と地の反転により生まれたオープンスペースには、地域住民と高齢者が自然に交流できる機能を配置します。住宅のような親しみやすさを持ちながら誰もが利用できる開放的な空間とすることで、街とのつながりを育み、従来の施設にはない新たな機能性を実現します。

